

医療機関における参加型職場環境改善活動 他部門との協力

ガイドラインステップ	キーワード (6つ以内)	・業務改善 ・患者中心の医療 ・他部門との協力
1 - 4 12 16		
改善・取組みの背景と課題	<p>平成 18 年から 20 年 にかけて、メンタルヘルスアクションチェックリストを用いた職場環境改善プログラムに従って、参加型職場環境改善活動を実施した。1 つの職場の努力だけでは解決できない問題も想定され、安全衛生委員会の管轄下にリスクマネジメントを担当する副院長を総括責任者とする改善活動の支援グループを結成した。</p> <p>新生児センターにおける極小未熟児の哺乳に関する患者情報確認などの問題 哺乳瓶ふたの問題：アルミ箔を蓋に用いて氏名や母乳・調整乳の区別を手書きしていたが、蓋の破損による汚染、転記ミス・記入漏れ・錯誤の危険性が付きまとった。またこの業務の負担は大きく、患児ケアの時間確保にも支障を生じていた。</p> <p>脳外科病棟における患者リハビリ送迎係りの業務負担と、患者リハビリ施行時間の確保とリハビリ計画の円滑な遂行との問題 1人で限られた時間内に約 30-40 名の患者の送迎を行い、リハビリ担当係の総移動距離は 8km に達していた。当然、患者にとって待ち時間・ロス時間が発生し、リハビリ計画にも影響が生じていた。</p>	
改善・取組みの着眼点	<p>対策として、</p> <p>活動支援チームメンバー：ファシリテータの選定は、役職者を主体に、医療安全管理室、看護部、放射線科、栄養課、薬剤部そして事務部から行き、各部門の協力要請を図った。</p> <p>職場環境改善活動の対象部署は、脳外科病棟・整形外科病棟・リハビリ科病棟などの看護部 7 部署に、リハビリ科を加えた 8 部署とした。</p> <p>職場環境改善活動を進める中で、活動支援グループからのアドバイスや、職場環境改善活動経過報告会などの交流によって生じる、他部門との協力による改善を期待した。</p>	
改善・取組みの概要	<p>放射線科では、診察券のカードリーダーを用いて、レントゲンフィルム袋に張る患者氏名・生年月日などの患者情報シールを印刷するソフトを、すでに開発していた。新生児センターにおける職場の問題点聴取の際、既開発ソフトの応用が提案された。その結果、放射線科技師による診察カード読み取りソフト開発がなされ、診察券からワンタッチで患者 ID・母乳・調整乳などの情報付シールプリントが可能となった。最終的に、アルミ箔の蓋に手書き記載からプラスチック製の哺乳瓶蓋に患者情報シールを張る方式に変更した。</p> <p>職場環境改善活動報告会において、脳外科病棟のリハビリ送迎の負担が問題点として報告された。実情を聞き、以前からリハビリ対象患者の送迎の遅れによるリハビリ実施時間の短縮化を問題としていたリハビリ科から、自発的にリハビリ科による患者送迎の申し入れがなされた。</p>	

<p>写真・図表・イラスト</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>改善前</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>改善後</p>  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>			
<p>効果</p>	<p>診察券から読み取られる患者情報シールとプラスチック製哺乳瓶蓋使用に変更後、ふたの破損、転記ミス・漏れ・錯誤は防止され、安心・安全な医療の提供と業務負担の軽減から生まれた患児ケアの充実に貢献した。</p> <p>速やかなリハビリ施行を目的としたが、患者リハビリ情報の共有やリハビリに関する勉強会開催などへと発展した。</p> <p>他の病棟・整形外科病棟においても、医師による病棟回診と患者リハビリとのスケジュール調整や、病棟におけるリハビリ施行についての協力・指導がなされ、患者の待ち時間短縮及びリハビリの充実に、ひいては在宅退院(自宅療養)への貢献がみられた。</p>			
<p>このGPSの経験から学ぶことができるポイント</p>	<p>職場環境改善活動には、他業種との横断的協力が有効であり、参加型職場環境改善活動は他部署との協力関係を構築しやすいことが示唆された。</p> <p>職場環境改善活動の支援のファシリテータ選定にあたって、各部門からのスタッフ要請は横断的協力体制の構築に有用であった。</p> <p>職場環境改善活動の対象部署には看護部のみならず、他のコメディカルや事務部門を加えると、相互理解の進展のみならず、相乗効果が期待できる。</p> <p>安全・安心・良質な医療提供、「すべては患者様のために、患者様にとって1番いい結果を」という共通理念が、部署の利害を超えた協力を生み出す。</p>			
<p>参考資料</p>	<p>[医療機関におけるメンタルヘルス向上のための職場環境チェックリスト] 吉川徹編 労働科学研究小出版部</p>			
<p>投稿者</p>	<p>坂田知子</p>	<p>e-mail</p>	<p>ftoku@csf.ne.jp</p>	<p>2009年12月14日</p>